

其音ヨラシの同じきが故に借用ひしなり若と最愛兒をマナコといひ又愛兒とも云るし實子をばマゴといひて眞子と云るせし事ども萬葉集に見えたり古語に父子をばカヅコといふ孫をばムマゴといひしを俗にはコノコなどいひしは即子の子の義也と見えたり爾雅に子の子の字は

〔日本書紀七景行〕四十年七月戊戌天皇持斧鉞以授日本武尊曰朕聞略其東夷之中蝦夷是尤強焉

○中今朕察汝爲人也身體長大容姿端正力能扛鼎猛如雷電所向無前所攻必勝即知之形則我子實則神人是寔天啓朕不叡且國不平令經綸天業不絕宗廟乎略

〔徒然草上〕我身のやむことなからんにもまして數ならざらんにも子といふものなくて有なん前中書王九條太政大臣花園左大臣みなぞうたえむことをねがひ給へり

○按ズルニぞうは子孫ナリ

〔春波樓筆記〕さて亦子なき者は物のあはれを知らず我子を愛するのあまり其愛他の子に及べり此情は書にも文にも述ぶる事能はず然るに段々と生長して後は各々己の志しをあらはし必親の志と差ひ己の身體親の躬より出でたりと云ふ事を辨する者鮮し且又孝をつとむる者多からず親を親とせざる者多し親は子とし子を思ふ情深し是己の體より出でたる故なり今に至りて考ふるに子は無きにまかじ

〔松屋筆記九十三〕子は三界の首枷クビカサ

鎌田草子十六にさいし珍寶ぎふわうゐりんみやうまうじふずるしやげにもおもへばかたきなり子は三界の首かせと今こそ思ひえられたれ云々

〔拾遺和歌集七物名〕またまみ

あつまにてやしなはれたる人の子はまたまみてこそ物はいひけれ

よみ人しらす

〔伊呂波字類抄古倫〕息コ